

第 25 号

群大病院 地域連携だより

病院の理念

大学病院としての使命を全うし、
国民の健康と生活を守る。

基本方針

安全・納得・信頼の医療を提供する。
次代を担う人間性豊かな医療人を育成する。
明日の医療を創造し、国際社会に貢献する。
医療連携を推進し、地域医療再生の拠点となる。

地域医療連携施設交流会を終えて

患者支援センター長 村上 正巳



田村病院長による挨拶

平成 29 年 7 月 20 日（木）に前橋市商工会議所において、群馬県医師会ならびに、郡市医師会の先生方や地域連携登録施設の皆様をお招きして、第 8 回群馬大学医学部附属病院地域医療連携施設交流会を開催いたしました。交流会 I 部は活動報告、交流会 II 部は懇親会とさせていただきますでしたが、院外から I 部に 102 名、II 部に 85 名の先生方にご出席いただきました。

交流会 I 部では、群馬県医師会副会長の川島崇先生、前橋市医師会長の田中義先生、群馬県病院協会長の西松輝高先生からご挨拶いただいた後、当院からの活動報告を行いました。最初に、群馬大学医学部附属病院における医療事故後の改革の状況について、田村病院長から報告させていただきました。続いて、新たに設置される地域医療研究・教育センターについて村上患者支援センター長から説明させていただきました。地域医療研究・教育センターは、群馬大学医学部附属病院の改革の 3 本の柱の一つとして、全県体制による医師の配置や医師をはじめとする医療スタッフの人材育成をサポートすることを目的として設置されるもので、群馬県の地域医療への貢献を目指しています。さらに、がん地域連携パスの現状について塚本腫瘍センター長から報告させていただき、最後に齋藤准教授から重粒子線医学センターについての説明とご案内をさせていただきました。

交流会 II 部では、前橋市医師会副会長の岸川一郎先生に乾杯のご発声をいただいた後、会食を交えて活発な議論及び意見交換が行われ、盛況のうちに会を終えることができました。お忙しい中ご出席いただきました皆様に感謝申し上げます。

群馬大学医学部附属病院では、今後一層の安全強化と医療の質向上を目指し、一日も早い信頼回復に努め、群馬県の医療に貢献して行く所存です。皆様の変わらぬご指導とご支援をよろしくお願い申し上げます。



交流会 I 部の様子

群馬大学医学部附属病院
患者支援センター（連携担当）

〒371-8511 前橋市昭和町三丁目 39 番 15 号

電話 027-220-7733

FAX 027-220-7777

患者支援センターホームページ

<http://kanjasien.dept.showa.gunma-u.ac.jp/>

開催報告

平成 29 年度 地域相談支援フォーラム in 北関東甲信越 どうしていますか？ 患者が自分の最期を考えるとき ～事前意思指示書と共に考える～ を終えて

患者支援センター看護師長 富田千恵子

平成 29 年 11 月 18 日（土）本院刀城会館にて、北関東甲信越のがん相談支援を行う相談員を対象とした研修会が開催され、121 名の方にご参加いただきました。

この研修は昨年 8 月、国立がん研究センターがん対策情報センターの企画に群馬県として応募し、栃木県・茨城県・山梨県・長野県・新潟県の賛同を得て実施されました。「患者がその人らしい最期を迎えるために相談員としてすべきことについて、他県の取り組みを把握しながら、法的な視点や相談員としての知識や支援方法を学び、考えることで、明日からの相談支援に生かす機会とする」ことを趣旨とし、以下の 3 部構成で行いました。

<シンポジウム>

テーマ：「各県における事前意思表示の取り組みについて」

参加 6 県の代表者が、事前意思指示書作成の経緯や、自院における意思決定支援の取り組みや現状、県における取り組みなどを発表し、その後、代表者と参加者で意見交換を行いました。

他県の取り組みを知ることで、自部署や県での今後の取り組みについて考えることができました。『職場でスタッフと話し合い、今後に活かしたい』との感想をいただきました。

<特別講演>

テーマ：「終末期医療に関する法と倫理

ーやりたいこと & できることを考えるために、正しく知る & 理解する」

講師：国立がん研究センター 研究支援センター

生命倫理部 生命倫理・医事法室長 一家 綱邦先生

終末期医療を巡る法の現状、「人生の最終段階における医療の決定プロセスに関するガイドライン」の読み方、悩ましい臨床問題に対する基本的な考え方の 3 部構成で、終末期患者の治療中止の例を主に「やるべきことをやれば、やりたいことをできる」ことを理解してほしいという趣旨での講演がありました。難しいテーマをわかりやすくご講演いただき、『相談員の悩みが晴れた気がする』と感想をいただきました。

<グループディスカッション>

テーマ 1：「終末期における相談員としての意思決定支援に必要な知識や技術について」

テーマ 2：「事前意思指示書に関する相談員の対応について」

ファシリテーターを中心に 6 つのグループに分かれ、他県の相談員と共に、ディスカッションを行いました。『難しい課題でも皆で話し合うことで花開くことができる。他県とのつながりができて楽しかった』との言葉が聞かれ、有意義な研修になったと感じました。

ご協力いただいた実行委員の皆様には感謝申し上げますとともに、また研修会でお会いできることを楽しみにしております。今後ともよろしく願いいたします。



フォーラムの様子

ご協力いただいた実行委員の皆様との集合写真



一家 綱邦先生によるご講演



グループディスカッションの様子



群馬県がん診療連携拠点病院地域懇話会・市民講座

平成 29 年 6 月 17 日（土）に群馬会館において、群馬県におけるがん対策推進を目的とした恒例の市民講座を開催しました。

前半は、がん治療をサポートするリハビリテーションをテーマに、群馬大学医学部附属病院リハビリテーション部理学療法士長谷川信先生から「がん治療をサポート～リハビリテーションの実際～」と題して講演いただきました。後半は、がん患者さんのこころのケアをテーマに、群馬大学医学部附属病院精神科神経科藤平和吉先生から「がん患者さんのこころのケア～つらさや苦しみにどう応じるか～」と題して講演いただきました。

当日は 223 名の方にご来場いただき、多くの患者さんやご家族の皆様にもご参加いただきました。参加者の皆様のアンケートでは、「リハビリテーションについて実践的な知識を学ぶことができた」「気持ちを聴くことについて分かりやすく理解することができた」といったご意見を多くいただきました。講演後には交流茶話会が開催され、患者さんやご家族の皆様、医療関係者がお茶を楽しみながら情報交換を行い、盛況のうちに終了しました。



長谷川 信 先生



藤平 和吉 先生



茶話会の様子

リレー・フォー・ライフジャパンぐんま 群大病院プレイベント



平成29年10月4日(水)に本院において、3回目のプレイベントを開催しました。プレイベントは、リレー・フォー・ライフジャパンぐんまの開催日当日に参加できないがん患者さんに元気を与え、希望を分かち合うために開催しています。

今回は、当院の「なごみサロン」に参加している有志によるコーラスが披露され、アンコールにも応えていました。多くの方にご参加いただき、サバイバーズフラッグやルミナリエの作成、メッセージを記載したルミナリエの展示も行いました。作成したフラッグは、本番のリレーウォークで参加者が持って歩きました。



リレー・フォー・ライフジャパン2017ぐんまに参加しました

平成29年10月7日(土)・8日(日)にALSOK群馬総合スポーツセンターふれあいグラウンドにて開催された、リレー・フォー・ライフジャパン2017ぐんまに参加しました。

当院から267名が参加し、プレイベントで作成したサバイバーズフラッグを掲げ、24時間リレーをつなぐことができました。会場では、当院看護師による「癒しのハンドマッサージ」を実施し、156名の来場者を癒しました。

